

破天荒

教宣部

5008号

2016年
6月 6日

化学一般京滋地本
全竹中労働組合

夏季一時金要求 提出

来年実施の八% 十%の消費増税が見送られる中、先週末に夏季一時金の要求団体交渉を行いました。要求は三カ月、要求の根拠は生活実感に基づいた組合員アンケートの平均です。

回答指定日

化学一般京滋福地本の統一回答指定日は六月十五日となっておりますが、その前の連絡では十三日でした。会社に日程を申し入れた都合上、回答指定日を十三日のままとしました。ここ数年、組合が妥結の意思表示をして支給日まで査定の日かかると会社は説明していますので、今年のタイムリミットは二二日となり、

かえって指定日を早めたほうが良かったのかもしれない。交渉が長引かなければ支給日は七月五日の予定です。

理由の無い査定

季節の移ろいは早い。桜が一斉に散り、新入社員の集団が目につくと思えば、ハナミズキが咲き、就活の学生たちがスマホを片手にうろつろしている、と思う間もなく6月になっていく。退職後の生ビールが格別に美味しいが、7時でも明るいため、赤い顔で電車に乗るのは少しだけ恥ずかしい。



組合員以外はすでに自己申告書が配布され、上司の面談も終わり、考課査定の最終段階に入っているとされています。

査定導入時、組合が反対したのは、現在の仕組みではフィードバックが無いこと、異議申し立ての仕組みが無いこと、透明性が補償されないこと、査定幅が〇・二カ月と大きいことでした。

査定の仕組みは改善されず、査定導入によって業績

が上がったわけでもなく。上司が部下に威圧的になれる唯一の楽しみ(面談)となつていようにも見えません。竹中製品の売上は外注さん、納入業者さん、パート・嘱託・アルバイトさん、お客さん全ての関わりあいにある人たちの好意によって支えられていることを忘れて先細りの道しかなかった。

三社の業績

竹中三社の一時金は「一人当たり経常利益」によって月数が計算されます。団交で参考までに対象期間の

ひとりごと

就活も企業面接が解禁された。黒スーツに黒い靴、黒い髪色、後ろに束ねた髪、みんな同じ。個人的な格好は面接でアウトとしたら、個人的な資質を求めている企業はどのようにならぬ新人を見つめるのか。でも、脱個性はある意味、今の企業文化を現わしているのかも知れない。他人より変わったことをしてはいけない、個

人行動はだめ、空気を読め、自分の本当の意見を言っはいけないという圧力が企業に入る前から彼らを縛っている。

日本企業に活力がないのはこの当りに問題があるのではないのか。竹中に活力がないのは、また別の話。

業績をききました。
【電子】昨年同期に比べるとちょっと悪い。
【システム】対象期間でいうと昨年同様黒字。
【オプト】昨年ぐらいいました。
・・・という返事が返ってきました。
昨年の回答月数は二・四八カ月でした。

バーベキュー

先週の土曜日、OBの先輩のNさん宅(京北町)のお庭でバーベキューを御馳走になりました。

最初何と「猪肉」！が出てきました。近所のお肉屋さで手に入れられたそうので、臭みを抜くためにリンゴをすった中に肉を漬けられていました。炭火でじっくりと焼きお味は...?。臭みが全然なく牛や豚でない食感、美味でした。

参加者は7名でOBの先輩が5名、何の気遣いもなく昼間からビールを飲んでワイワイと野外で騒ぎ、どの人もイキイキした顔で楽しひと時でした。

